全国初！

「学習確認プログラム」スタート

学力向上へ！ 中学生の自学・自習を支援

市立中学校で今年度から「学習確認プログラム」が始まりました。これは、中学3年間の学習内容を計画的に総復習し、その達成状況をテスト形式で定期的に確認するとともに、全市との比較を含め、一人一人の子どもたちの自らが学ぶべき課題を明らかにして今後の学習に役立てようとするものです。公教育の使命である一人一人の学力保障、進路保障のさらなる充実を図ります。

3年間の学習の定着状況をテストで確認

●プログラムの概要

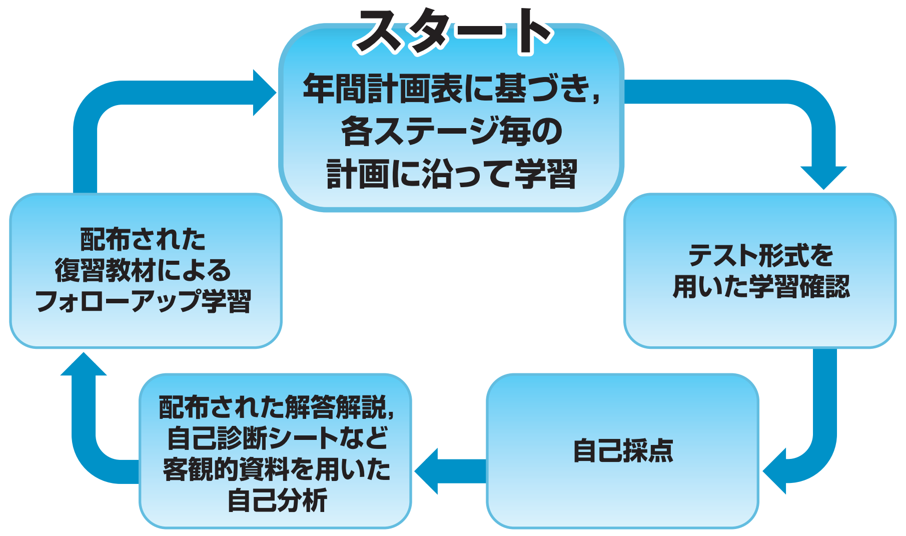
学年
中2／1ステージ（1月）
中3／4ステージ（5・8・10・12月）

教科
国語・社会・数学・理科・英語

製作
校長会・教育研究会のプロジェクトチームを中心に、教育委員会・外部専門機関の協力を得て学習確認問題、復習教材等を作成

効果
①計画的な総復習を行うことにより、事前事後の学習の機会を増やし、学習内容の定着を高めることができます。
②詳しい解答解説や自己診断シートにより成績処理を待たずに自己採点・復習ができます。
③迅速なデータ処理（約25日間）により、学習状況と学ぶべき課題がいちはやく確認できるほか、目標に即した復習教材を活用して、弱点克服、さらにステップアップを目指します。

●プログラムの流れ



スタート
年間計画表に基づき，各ステージ毎の計画に沿って学習

テスト形式を用いた学習確認

自己採点

配布された解答解説，自己診断シートなど客観的資料を用いた自己分析

配布された復習教材によるフォローアップ学習

「学習確認プログラム」をより効果的な取組にするために，ご家庭の皆様のご理解・ご支援を

京都市教育委員会指導部参与・前京都市立中学校長会会長
田中長一

様々な生活環境の中で生きる子どもたちには、それぞれに主張があり、輝く個性があります。教育者はそうした一人一人の優れた素質を活かしつつ、希望の未来へと続く道標を示し、そして、子どもたちは喜び、笑い、悩みながら試行錯誤を繰り返して自己を確立し、未来に巣立っていきます。成長した子どもたちの旅立ちは教師冥利に尽きる至福の瞬間であるとともに、我が子を見送る親のような期待と不安の入り混じった複雑な瞬間でもあります。

長い教師生活の中で、常に子どもたちの学力保障・進路保障を求め続ける中、昨年、中学校長会では個々の中学校での取組を根幹から支え、また、推進力となる新しい教育システムを創ろうという気運が高まってまいりました。「一人一人の子どもたちを徹底的に大切にする教育」に向け、今すべきことは何かについて、中学校教育研究会、教育委員会とも議論し、京都市からも多額の予算を確保していただき「学習確認プログラム」を全市立中学校で実施することになったわけです。

常に視点においていたのは、学校での指導改善につながるのはもちろんのこと、全ての子どもたちが自己の学習定着状況を分かりやすく確認できる手立て、計画的な学習の習慣化と家庭学習の定着化でした。そして、生徒自らが進路を切り拓くための「自学自習」への支援が大きな狙いです。

このプログラムは全国的に例のないシステムで、真に効果的なプログラムとするためには、何よりも家庭の皆様方のご理解が第一であり、力強いご支援が必要です。全ての子どもたちの一層の学力向上を支援する本市「学習確認プログラム」に是非ともご期待ください。

読書大好き！⑥

今回は，本年度子ども読書活動優秀実践団体市長賞を受賞した砂川小「お話の会」の取組を紹介します。

始まりはたった2人の活動から

「お話の会」は，今から7年前，子どもたちがいろいろな本に出会ってほしい，少しでも本を好きになってほしいとの思いをもった，2人の保護者による読み聞かせ活動から始まりました。活動では，物語に聞き入る子どもの瞳の輝きに深く感動されたそうです。「今度はいつあるの？」の声に励まされ，会の運営や内容の検討会にも熱が入るようになりました。

活動広がり，学校図書ボランティアへ

年々メンバーも増え，4年前からは学期末に「おたのしみ会」を開催。大型絵本，ペープサート（紙人形劇），そしてメンバーによる寸劇や合間の手遊びなどが行われています。

今では，部活動として小学2年生～6年生33名が活動する「おはなしキッズ」も参加し，群読や手話ソングを披露。子どもたちが楽しみにしている会となっています。

また，読み聞かせも低学年は中間休みに，高学年は昼休みにと，発達段階に応じたものとしたり，図書室を使いやすくするため，図書の整理も積極的にされています。受賞を機に，子どもたちが素晴らしい本と出会い，さらに本好きな子どもが増えることを願い，決意を新たに活動されています。

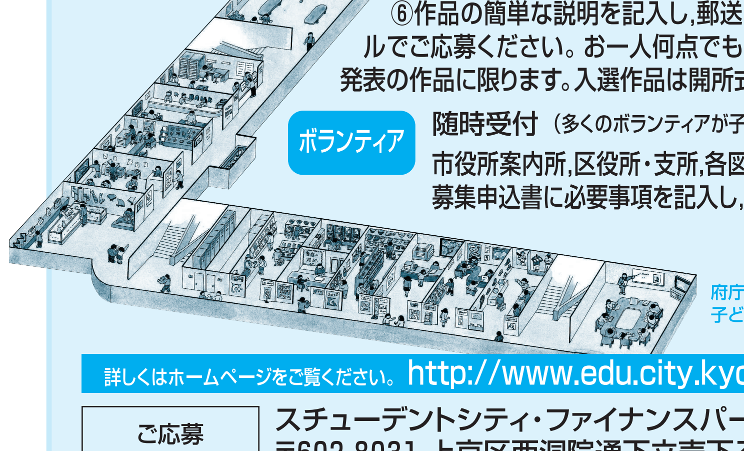
みんなで読んで，みんなで味わう「おはなしキッズ」による群読

社会の仕組み，経済の働き，生き方を学ぶ

京都市スチューデントシティ・ファイナンスパーク

「設置施設愛称」と「ボランティア」募集

来年1月に開所する「スチューデントシティ・ファイナンスパーク」。小・中学生が現実の生活により近い環境の中で，社会の仕組みや経済の働きを学び，職業観や勤労観を育みます。この度，開設場所である元滋野中学校校舎の愛称と，子どもへの指導・助言等を行うボランティアを募集します。



府庁前の元滋野中に，子どもの街が誕生

愛称 10月20日（金）まで。※当日消印有効
①住所，②氏名（ふりがな），③年齢，④電話番号，⑤作品，⑥作品の簡単な説明を記入し，郵送（はがき）かEメールでご応募ください。お一人何点でも応募可能，自作・未発表の作品に限ります。入選作品は開所式典において表彰。

ボランティア 随時受付（多くのボランティアが子どもの学びを支えます）
市役所案内所，区役所・支所，各図書館等で配布する募集申込書に必要事項を記入し，郵送またはFAXで。

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.edu.city.kyoto.jp/scfp/

ご応募 お問い合わせ
スチューデントシティ・ファイナンスパーク開設準備室
〒602-8031 上京区西洞院通下立売下る東裏辻町402
☎253-0880 FAX 253-0878 Eメール scfp@edu.city.kyoto.jp

京都「おやじの会」が「早寝・早起き・朝ごはん」の活動を募集！

10月3日は「父さんの日」です！

お父さんと子どもとのふれあいの場づくりと，地域でのお父さん同士の輪を広げることを目的にした「おやじの会」は，現在，167の学校・幼稚園で活動中です。

これら「おやじの会」のネットワークである京都「おやじの会」連絡会は，平成15年10月3日（語呂あわせで「父さんの日」と呼んでいます！）に設立以来，「わが子の父親から地域のおやじへ」を合言葉に，「子どもが見てるぞキャンペーン・するなポイ捨て！」や「全国おやじサミット in 京都」の開催等に取り組んできました。

地域ぐるみで「早寝・早起き・朝ごはん」を

最近「早寝・早起き・朝ごはん」ができていない子どもが増えています。夜遅くまで起きていたり，朝ごはんを食べずに登校したりする子どもの生活スタイルを見直すため，京都「おやじの会」連絡会では「子どもが見てるぞキャンペーン"おはよう・おやすみ・いただきます"」として，「早寝・早起き・朝ごはん」を今年度の「父さんの日」の活動テーマにしました。

そこで，10月3日の「父さんの日」の前後の概ね9月3日～11月3日の期間に，「おやじの会」やPTA，地域で，子どもに「早寝・早起き・朝ごはん」を促し，子どもの生活リズムの向上を図る活動の実施を呼び掛けています。例えば，夜間パトロール，ラジオ体操，学校や公園の清掃活動，早朝トイレ掃除，学校キャンプや朝食作り…。活動を計画されましたら，下記までご連絡ください。ユニークな取組は，当誌上や「PTAしんぶん」で紹介します。

早起きしての清掃活動は清々しい

連絡先 ● 京都「おやじの会」連絡会事務局：生涯学習部家庭地域教育支援担当
☎222-3590 FAX222-2061

世界のおやじが子育てを論ずる！

「国際 oyaji サミット in KYOTO」

開催決定！ **入場無料**

日時 平成19年2月3日（土） 13:30～ 会場 国立京都国際会館【ルームA】

ジュニア京都検定 11月いよいよスタート

テキストブックも大好評の『歴史都市・京都から学ぶジュニア日本文化検定（ジュニア京都検定）』。基礎コースの検定がいよいよ11月下旬に実施されます。テキストブックを参考に，身近な京都の伝統文化を実際に「体験」してみませんか。

京町家を訪問！ 昔の暮らしにふれてみよう

間口が狭く，奥に細長い京都の伝統的な家は「うなぎの寝床」と呼ばれます。「京町家」とも呼ばれるこれらの家には，昔の人の暮らしの歴史や，知恵がつまっています。

例えば，なぜ町家の間口は狭いのでしょう。一つには，昔は間口の広さで税金の額を決めていたので，できるだけ間口を狭くしようとしたから。また，間口を狭くすることで通りにたくさんの店を並べ，にぎわいを出そうとしたとも言われています（『ジュニア京都検定』テキストブック140P参照）。

古い町家には，現代の家とは違う暮らしの工夫が多く見られます。保存されて一般に公開されているものもあれば，カフェや飲食店として使われているものもあります。昔の暮らしを感じられる空間に身を置いてみることは，新鮮な体験になるかもしれません。

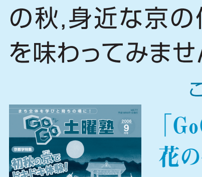
風情ある町家のたたずまい

京野菜を味わおう！ 食卓で京の伝統文化を楽しむ

「京野菜」とは，四季のはっきりした京都の気候や，おいしい水に恵まれた風土，栽培技術を伝えてきた農家の努力などによって，一般的な野菜とは異なった独特の形や風味を持つようになった野菜のことです（テキストブック128P参照）。

もう栽培されていないものもありますが，現在もいろいろな京野菜が八百屋さんやスーパーの野菜売り場に並んでおり，簡単に手に入り，料理して味わうことができます。食欲の秋，身近な京の伝統を味わってみませんか。

ころんとした形が愛らしい加茂なす



「GoGo土曜塾」には，お茶やお花の体験，能，狂言，雅楽など，伝統文化体験の情報が満載です！気になるイベントが見つかったら，どんどんご参加ください。

「GoGo土曜塾」9月号

「歴史都市・京都から学ぶジュニア日本文化検定（ジュニア京都検定）」基礎コース

【一般会場受検】中高生・修学旅行生から大人まで誰でも受検できます。

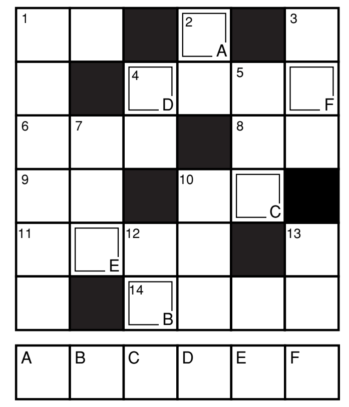
日時 11月25日（土） 10:00～ 会場 京都市総合教育センター 他

検定料／1,000円（税込・別途払込手数料必要） 申込期間／10月2日（月）～20日（金）
申込方法／専用申込書に必要事項を記入のうえ，最寄りの郵便局で検定料を払い込んでください。
●京都市立小学校5・6年生が学校単位で受検する場合は，無料で受検できますので，実施日時等については別途学校からの通知に従ってください。

お問い合わせ／生涯学習部みやこ子ども土曜塾担当 ☎251-1009

第43回 クロスワードパズル

パズル制作／角田美里



ヨコのカギ

①茶道には，表千家，○○千家，武者小路千家の三千家があります
④京都独特の言葉の1つ。「○○○○」は，食べ物のとろんとした穏やかな口当たりや，落ち着いた様子をいいます
⑥福井県南西部から京都府北部にわたる日本海の大陥没湾といえば，○○○湾です
⑧障子や戸の骨組みのことですよ
⑨家族全員で分担したいものです
⑩屋根に流れる雨水を地上に流す装置です
⑪焼いたり土瓶蒸しでいただく秋の味覚。江戸時代から京都は産地として有名です
⑭京野菜で聖護院といえば，苦みが少なく煮くずれしにくいこれですね

タテのカギ

①五条の大橋で弁慶を破り家来にしたのは？
②名声より実利を選ぶことを，名を捨てて○○を取る，といいます
③のっぽさん。京都市動物園にはキヨミズくんとミライちゃんがいますよ
④見た夢が現実になるのが，○○夢ですね
⑤何でも上手な多芸○○な人です
⑦くだものをこうよぶこともあります。ワインは○○○酒の一種ですね
⑩京都府立植物園には，唐草模様の透かし彫りがある○○○塔があります
⑫これより高いものはない，といいますよ
⑬マッチや花火の原料ですね

第170号の解答 ➡ オコシヤス

A	B	C	D	E
オ	コ	シ	ヤ	ス

応募方法 ハガキにクイズの答え（ABCDEF）・住所・氏名・電話番号を明記の上
〒604-8571〈住所不要〉
京都市教育委員会 生涯学習部
「あしたのために」クイズ係 宛

正解者の中から
30名に図書カード1000円分，
20名に青少年科学センター入場券1枚
を進呈。
●青少年科学センター入場券の当選者発表は，発送をもって替えさせていただきます。
●第43回クロスワードパズルの当選発表は次回に掲載

締め切り日
10月20日（金）当日消印有効

■図書カード 第170号当選者のお名前

遊津郁美 飯芽孝博 池田裕 石原大地 伊藤幹太 井本佳子 上野真梨子 宇野晶子 岡崎大地 奥谷智恵 北出智巳 久貝優季 口田佳子 坂口健心 塩本さとみ
重原千愛 田中葵 谷口ようこ 津村佳子 徳力めぐみ 中井香苗 永田益子 中村幸世 西尾勇騎 濱井美歩 古谷茉衣 水谷吏絵 八木萌莉 山川真由子 吉田信哉
〈敬称略〉

※459人の皆さん，ご応募大変ありがとうございました。

●「あしたのために」に対するご意見・ご感想もお待ちしております。

●子育て体験談

入選作品

ちょっと聞いて、私の子育て

責任感

芦田多恵（右京区）

小学生のころ、野球チームに入ったからと、日曜日の早朝から私に弁当を作らせて出かけていく幼い後姿を、「気をつけてね」と送り出したものの、夕日が沈むころ足取り重く日焼けした顔は、疲れそのものだった。近所での遊び仲間をしり目に「これでいいのかなあ……」と感じながらも、本人が進んでやるといったことでもあり、"がんばれ"とその都度私は励まし続けた。

そんな中、ある日曜日の早朝、突然私にもう弁当は作らなくっていいと泣きながら、「もう、やめる！」と告白した。いつもは出張ばかりの夫がめずらしく家にいて、「なんだって、理由は？」と厳しい声に、「しんどいし、いつも怒られるし、つらい」といったとたん、夫はとっさにそばにあった分厚い本で彼の尻を「バシッ」とぶった。そして一言「お前が勝手にやると言ったことやないか！自分が言ったことは責任をもてや！」とめったに怒らない夫は、はき捨てるように言った。ただ、だまってその様子を見守りながら、いつも子育ては私中心で、小さいことを日々叱っていることも多かった中、夫の一言はとてもありがたく聞こえた。

さて、「次週はどうするのかなあ……」と思いながら、何事もなかったようにまた、早朝から弁当を作った。彼も変わりなく元気に出かけて行った。

それから野球は大学まで続いた。いろんなアクシデントの中……。

子育ても終え、思い出多い住まいを後に、夫と二人新居への引越しの最中、彼の荷物の中になつかしい文集を見つけた。ふとページを繰る途中、小学生のころに父に本でぶたれそのあとがいつまでも残り痛かったけど、自分には生涯忘れることがない出来事だった……と書かれた文が目に入った。厳しい夫のあの一言がどんなときも生きる力となり責任感となって、良い出来事として残っていたことを改めて知った。

そして今、彼も一児の父親となった。

●平成15年度に募集しました子育て体験談。入選作を順次掲載してきましたが、今回で最後となります。長らくのご愛読ありがとうございました。